

2023 年度 (令和 5 年度) 学校評価自己評価表

幸千	中学校区	校番	福山市立	幸千中	学校
最終更新日			2023年(令和5年)4月1日		

I 福山市	<p>ミッション ビジョン</p> <p>福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区	<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○コロナ禍における厳しい現状の中でも、児童・生徒のために活動を拡大・充実し取り組んでいる。 ●積極的な情報発信を行い、校区の学校・保護者・地域とより連携を深めて欲しい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>●不登校出現率が高い。 ●運動不足、体力の低下が見られる。 ○地域の行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が増えている。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性</p> <p>○主体的に学び よく考える生徒 ○自分なりに表現し伝え合う生徒 ○思いやりのある生徒 ○人や社会に貢献しようとする生徒</p> <p>○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。</p>
---------	--	--	--	--

III 自校	<p>ミッション</p> <p>福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>学校教育目標</p> <p>有為の人 ～夢の実現にむけ、真摯に努力する生徒の育成～</p> <p>現状</p> <p>〈児童生徒〉 ・生徒が問題発見をし問題解決をすることに挑戦し始めた。例えば、地域ボランティアを生徒が企画し運営し、次に向けて改善策を考えている。 ・授業での学びの場面だけでなく、日常生活でも、探究する姿勢に課題がある生徒が多い。 ・不登校生徒38名(6.1%)で多い。※全国平均5.0%(R3)</p> <p>〈授業〉 ・生徒がゴールをイメージしそれに向かって主体的に学習を始めた生徒がいる。検定に挑戦することを通して自信を実感する生徒が増えた。「検定に挑戦することをよし」とするムードが醸成し始めた。 ・受け身の生徒が多いので、生徒の主体性のために、生徒が学びの必然性を感じ、生徒が問いをもつ授業づくりを目指す必要がある。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>思考・創造力</p> <p>表現力</p> <p>思いやり</p> <p>能動的市民性</p> <p>めざす子ども像</p> <p>レベル3 自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。</p> <p>レベル2 情報を収集するとともに、分析・活用しながら、問題を発見し、その問題解決を目指すことができる。</p> <p>レベル1 与えられた情報を整理できる。</p>	<p>問いを創る授業について探究する</p> <p>①「はてなプロジェクト」(生徒が「問い」をもつ授業づくり)を学期に1回実施する。 ②指導と評価の一体化について意識した実践を重ねる。</p> <p>○生徒が「問い」をもつ授業(主体的・対話的で深い学び) ○わからないことがわからないといえる授業(誰一人見捨てない、生徒指導三機能)</p>
--------	--	--	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 幸千中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
4	・主体的・対話的で深い学びの推進 ・教員の授業力の向上を図り、生徒に確かな学力をつける	★	継続	・教員の質の高い「問い」を設定する力・学びをファシリテートする力を高める ・教員の単元を構想する力を高める	・生徒が「問い」をもつ授業づくりを探究する。 ・単元を意識した授業づくりをする。 ・指導と評価の一体化を意識した実践を重ねる。	・教員が生徒の変化に応じ、柔軟な授業の実践(教職員10ONEN77カード) ・生徒の学びの状況（生徒アンケート） ・全国学テ/伸び調査/各種調査								
1	・自尊感情、自己肯定感、自己効力感の高い生徒の育成 ・一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるWell-beingの理念の実現		新規	・自分で決めて実行し成功体験を通して自信を育む。 ・誰もが過ごしやすい、誰もがやり直しができる学校風土をつくる。 ・生徒がボランティア活動を企画・運営できる。	・生徒の自己決定に寄り添う。 ・いじめ防止プロジェクトを実施する。 ・生徒が問題発見、問題解決できる機会をもつ。 ・生徒がボランティアを開発する。 ・各種検定を推進する。	・不登校出現率（諸問題集計） ・ボランティアの機会 ・地域ボランティアの参加数 ・検定受験者数								
1	・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成		新規	・運動の楽しさを実感し、健康を大切にする態度を育む。	・体育の授業で、個々の記録の伸びに着目できるよう、結果を活用する。 ・体育的行事を生徒にとって運動が好きと思える機会にする。 ・生徒が生活習慣の改善や食育の推進の機会をもつ。	・体力向上推移 ・体育的行事の満足度 ・朝食摂取状況								
2	・教職員が元気・笑顔で勤務できる環境の充実 ・教職員は、個性を発揮しながら、生徒とともに自ら挑戦し続けている。		継続	・教職員が対話、コミュニケーションを深める。 ・組織マネジメントの確立	・業績評価（自己申告）書で、教職員一人一人が目標設定をする。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、生徒の資質能力を育み、教職員一人一人の持ち味を生かした持続可能な教育課程を編成する。	・教員が教科の面白さを実感 ・授業づくりを行う時間の確保 ・個性が認められている(教職員10ONEN77カード)								

「プロセス評価の評価基準」

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

「達成評価の評価基準」

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

「総合評価の評価基準」

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。